

世界が進むチカラになる

MUFG ①

挑戦 する企業

知見を融合

福島県南部にある人口約6500人の玉川村で「手ぶらキャッシュレス実証事業」の第2弾が始まった。指静脈情報を事前に登録した村民が専用端末に手をかざすことにより、玉川村の店舗で地域商品券を利用可能にする。村内施設利用時に顔認証で本人確認ができる

リースもデジタル変革

“人やサービス”つなげる

を活用。三菱HCキャピタルは培ってきた地域創生に関する知見を生かし、ビジネスモデルの構築などを担う。玉川村の成果をモデルに、全国の自治体のデジタル化推進への活用を目指す。

同社は三菱UFJリースと日立キャピタルが統合し、2021年に誕生した。三菱UFJファイナンスグループ(MUFG)のほか、三菱商事などが出資している。銀行に加え、商社、メーカー

え、在宅勤務によるオフィス需要減などの影響で22年の国内リース取扱高は4兆1872億円と、コロナ禍前の19年に比べ、1兆円以上減った。伝統的なりリース事業が成熟化する中、国内リース

大手はデジタルを活用したサービスの高付加価値化に動いている。三菱HCキャピタルは、例えば物流関連で荷主向けにデータを活用し

でもデジタル上であらゆる人やサービスをつなげる動きが着実に進んでいる。(敬称略)

取り組みも行う。この実証を担うのが日立製作所と、リース大手の三菱HCキャピタルだ。指静脈や顔、虹彩などを生体情報として活用した日立の生体情報暗号化技術「PBI」

玉川村の実証への参画について、三菱HCキャピタル常務執行役員の佐藤晴彦は「他にはないアセット(資産)カンパニーを目指す取り組みの一つだ」と説明する。

高付加価値化
低金利の長期化に加



指静脈認証で商品券を利用できる実証を玉川村で始めた